

2023年度八戸圏域_宿泊統計調査 報告書

2024年6月11日(火)



VISIT HACHINOHE

まるで、ワンダーランド。

調査概要

調査方法 八戸圏域構成市町村（八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町）内にある宿泊施設のうち、延べ宿泊者数のご提供にご協力いただいている施設からのデータをVISITはちのへにて集計

■集計対象宿泊施設

八戸市：23施設 五戸町：4施設 南部町：2施設 田子町：2施設 新郷村：1施設

調査期間 2023年4月1日 – 2024年3月31日

調査内容 月次の延べ宿泊者数、客室稼働率、外国人延べ宿泊者数（国別）

※延べ宿泊者数は宿泊者の延べ宿泊数であり、一人が複数日宿泊した場合その回数分をカウントしたもの。

（例：1人は2泊した場合は2人泊）

※客室稼働率については、八戸市内の宿泊施設のみ把握している。

【参考：2023年度トピック】

- ・青森県おでかけキャンペーン：2023年1月10日(月)～7月21日(金)
- ・青森県 台北線チャーター便運行：4月13日(木)～27日(木)、10月19日(木)～11月4日(土)
1月15日、19日、23日、27日、31日、2月4日
韓国便：1月20日より週3便運航
- ・大型連休：4月29日(日)～5月7日(日)
- ・岩手県 花巻空港での台湾を結ぶ国際定期便が運航再開（5月10日(水)）
- ・東北地方内夏祭りの通常開催
- ・ISU ジュニアワールドカップスピードスケート競技大会：2024年2月3日(土)・4日(日)
- ・2024 ISU 世界ジュニアスピードスケート選手権大会：2024年2月9日(金)～11日(日)

コロナ前（2019年度）水準に回復するも、冬季の宿泊者数はコロナ前の8割程度

2023年度の延べ宿泊者数は約84.6万人泊で、2019年度比99.9%となりコロナ前の水準に回復した。月別にみると、夏季（7月～9月）においてはコロナ前と同程度となっている一方、冬季（12月～2月）は2018年度比87%前後となった。客室稼働率を見ても冬季は65%以下となっており、冬季の宿泊需要の喚起が課題である。

【p3～p5参照】

外国人宿泊者数は、コロナ前（2019年度）水準を1%上回った

2023年度の外国人の国別延べ宿泊者数では、アメリカが最も多く4,671人泊、次いで台湾が4,058人泊、中国が3,112人泊であった。アメリカが2019年度比183%となる一方で、台湾は2019年度比52%となり、国別により回復傾向に差がある。なお、2月の外国人延べ宿泊者数は、3,098人泊で2019年度比293%と大幅に上回っているが、これはYSアリーナで開催されたスケートの国際大会の影響によるものと考えられる。

【p7～p8参照】

延べ宿泊者数 年次推移（八戸圏域・八戸市内）

- 2023年度の八戸圏域の延べ宿泊者数は約84.6万人泊、八戸市内の延べ宿泊者数は約82.6万人泊であり、コロナ前となる2019年度（八戸圏域約84.6万人泊、八戸市内約82.6万人泊）と同程度となった。

■ 八戸圏域内延べ宿泊者数（年次推移）



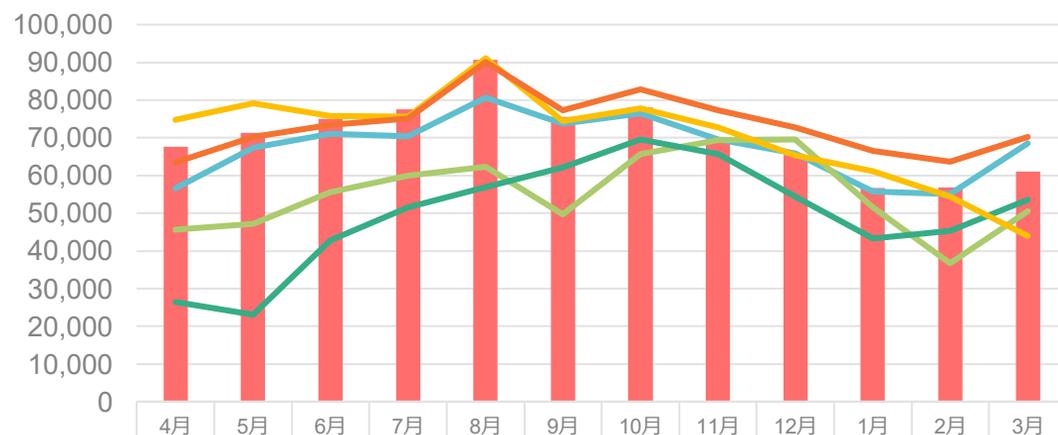
■ 八戸市内延べ宿泊者数（年次推移）



延べ宿泊者数 月次推移（八戸圏域・八戸市内）

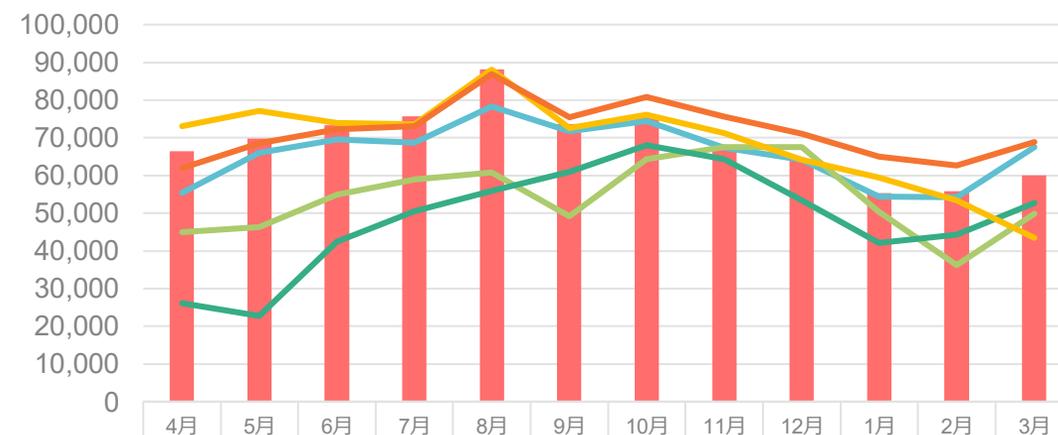
- 2023年度の八戸圏域の延べ宿泊者数を月別で見ると、最も宿泊者数の多い8月（90,774人泊）と最も宿泊者数の少ない1月（56,714人泊）で34,060人泊の差が生じている。
- コロナ前（2018年度・2019年度）と比較すると、夏季（6月～9月）の宿泊者数は同程度まで回復しているが、冬季（12月～2月）や春季（3月～5月）の宿泊者数は7,000～9,000人泊の差が生じている。

■ 八戸圏域内延べ宿泊者数（月次推移）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年度	67,696	71,387	75,042	77,593	90,774	75,506	78,081	69,728	65,472	56,714	56,838	61,108
2022年度	56,620	67,372	71,104	70,478	80,717	73,704	76,538	69,527	65,848	55,780	55,149	68,615
2021年度	45,703	47,106	55,577	60,027	62,297	49,778	65,704	69,345	69,567	51,623	36,815	50,615
2020年度	26,392	23,031	42,868	51,479	57,017	62,148	69,552	65,626	54,470	43,239	45,306	53,557
2019年度	74,734	79,095	75,767	75,599	91,180	74,514	77,814	72,819	65,318	61,142	54,362	44,063
2018年度	63,538	70,195	73,501	75,132	90,122	77,356	82,856	77,295	72,711	66,587	63,631	70,292

■ 八戸市内延べ宿泊者数（月次推移）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年度	66,437	69,887	73,351	75,661	88,096	73,633	75,961	67,857	63,851	55,379	55,924	60,086
2022年度	55,490	65,998	69,560	68,714	78,241	71,798	74,392	67,458	64,178	54,333	54,230	67,533
2021年度	44,965	46,411	54,904	59,040	60,791	49,168	64,272	67,613	67,614	50,312	36,186	49,875
2020年度	26,115	22,833	42,448	50,579	55,963	60,903	68,079	64,278	53,432	42,186	44,304	52,663
2019年度	73,068	77,189	73,900	73,634	88,062	72,554	76,138	71,328	64,146	59,467	53,425	43,528
2018年度	62,064	68,482	72,323	73,164	86,937	75,535	80,805	75,589	71,115	64,946	62,589	68,872

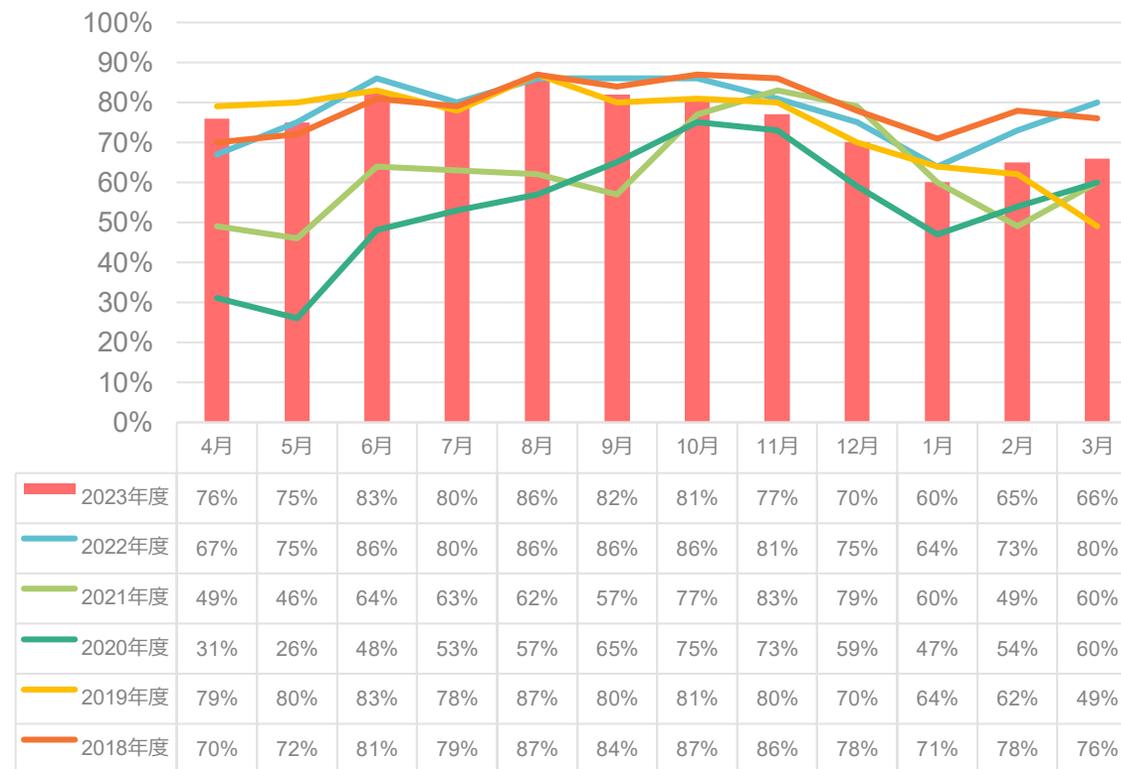
客室稼働率 年次・月次推移（八戸市内）

- 2023年度の八戸市内宿泊施設の客室稼働率は75%。コロナ前の2019年度と同程度となったが、2022年度より3ポイント減となった。
- 月別で見ると、6月～10月までは80%以上の稼働率があるものの、1月～3月は60%代となった。
- コロナ前（2018年度）と月別で比較すると、6月～9月では同程度となっているものの、12月～3月では10ポイント前後の減となった。

■ 八戸市内年間平均宿泊稼働率（年次推移）

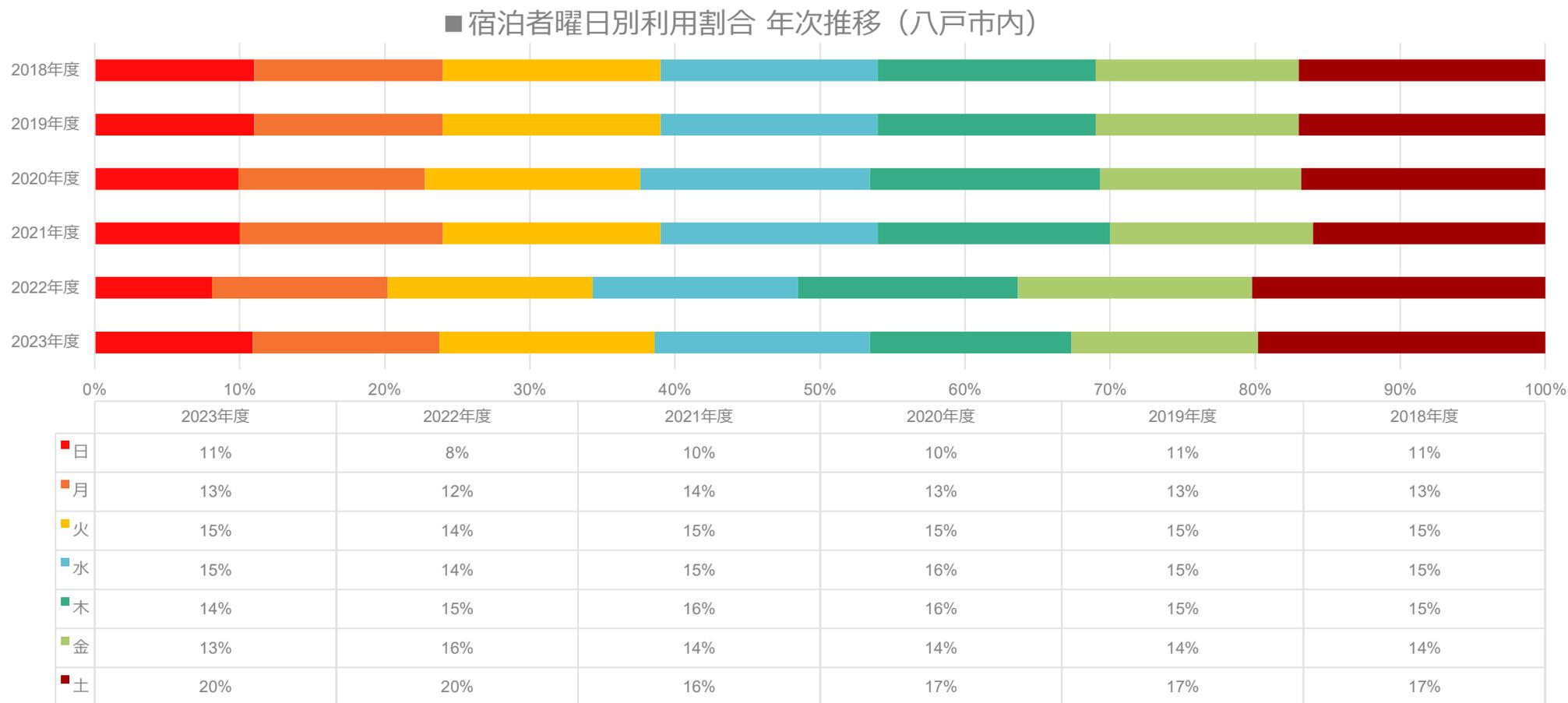


■ 八戸市内宿泊稼働率（月次平均推移）



宿泊者曜日別割合 年次推移（八戸市内）

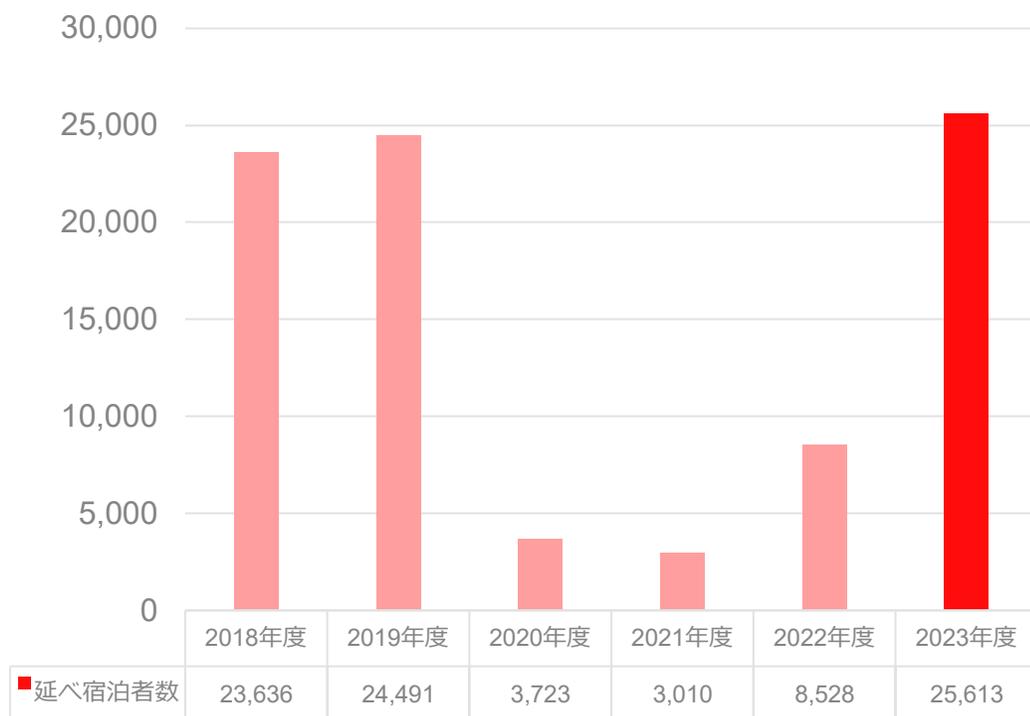
- 2023年度の宿泊者曜日別割合では、土曜日は20%、日曜日は11%、平日が15%前後となった。
- 年次推移をみると、土曜日の利用割合が増加している。



外国人延べ宿泊者数 年次・月次推移（八戸圏域）

- 2023年度の外国人延べ宿泊者数は25,613人泊であり、コロナ前（2019年度）の25,120人泊と同程度となった。
- 月別で見ると、4月・8月・10月・2月に3,000人泊程度の宿泊数であり、その他の期間は1,000～2,000人泊の宿泊数であった。
- コロナ前（2018・2019年度）と月次推移を比較すると、ピーク期となる8月・10月では1,000人泊の減となった。2月はジュニアスピードスケートの国際大会の影響で3,000人泊の増となった。

■ 八戸圏域 外国人延べ宿泊者数（年次推移）



■ 八戸圏域 外国人延べ宿泊者数（月次推移）



外国人国別延べ宿泊者数 年次推移（八戸圏域）

- 2023年度の国別の宿泊者数では、アメリカが最も多く4,671人泊、次いで台湾が4,058人泊、中国が3,112人泊であった。
- コロナ前（2018・2019年度）と比較すると、台湾は3,000人泊程度、中国は500人泊程度の減である一方、アメリカは2,000人泊程度の増となっており、その他の地域についても1,000人泊程度の増となった。

■ 外国人延べ宿泊者数 年次推移（八戸圏域）

